

学校通信

耕

河北町立谷地西部小学校

令和6年3月29日 発行

No. 315



学校 HP



教育目標 誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり

みなさんは西部小学校の自慢です（卒業証書授与式 校長式辞より）

6名の卒業生のみなさん、ご卒業、おめでとうございます。

今、みなさんが手にした卒業証書には、小学校の課程を卒業したことや、名前、生年月日が記されています。しかし、それだけではありません。文字の向こう側に、あるいは一行一行の行間に、谷地西部小学校で学んだ6年間の思い出が、垣間見えるはずですよ。みなさんの努力とともに、ご両親やご家族の限りない愛情も込められています。どうぞ大切にしてください。

こうして、一人一人を見ていると、巣立ちゆく君たちの姿がまぶしくもあり、でも、本心はさびしいです。もうすぐ、西部小学校の子供ではなくなってしまう。この気持ちは、みなさんを見つめている先生方も同じ気持ちです。先生という存在は、すれ違う風のようなものです。これからの果てしなく続く時間の中で、ほんの一瞬、たった一瞬だけすれ違っただけだとしても、みなさんはわたしたちの誇りです。そう、これまで何度も話してきた、谷地西部小学校の自慢なのです。

さて、みなさんは、小学校の学習を終えて、文字が読めるようになりました。計算もできるようになりました。当たり前だと思うかもしれませんが、世界に目を向ければ、文字を読むことができない子供たちがいます。理由は、学ぶ機会がないからです。私たちが学べるということは、とても幸せなことなのです。

それ以外でも、様々なことができるようになったはずですよ。谷地西部小学校で学んだこと、経験したことは、これから生きていく上で役立つ日が来ます。絶対です。学んだことは、自分自身のためであることは当然ですが、おうちの方々や、友達、もしかしたら、世界の誰かを助けることができるかもしれません。学んだことは、必ず人の役に立つ、そう考えたら、夢があると思いませんか。

これから長く続く人生を、楽しく、そして、自分らしく生きていくためには、まだまだ、学びや経験が必要です。周りの人を幸せにするために。そして、あなたの周りを笑顔でいっぱいにするために。もっともっと、たくさんのことを学ばなくてはなりません。でも、残念ながら、谷地西部小学校には、もう、みなさんが学ぶことは何もありません。先生たちが、いくら頭をひねっても、みなさんがワクワクする学びは、何も出てきません。小学校という世界は、みなさんにとっては狭すぎるのです。だから、次のステップへと進んでいくのです。

これから、みなさんは、中学校へと進みます。新しい学びが、ワクワクする学びが待っています。難しい勉強もあるかもしれません。つらい経験もするでしょう。でも大丈夫です。みなさんは、この谷地西部小学校で、「自ら行動する力」、「人を大切にできる力」、「考え抜く力」を、しっかりと身につけたのですから。これら3つの力を発揮して、楽しく、充実した中学校生活を送ってください。先生方はじめ、5年生以下、後輩全員がみなさんのことを心から応援しています。

さあ、卒業生のみなさん、別れの時が来ました。谷地西部小学校とみなさんの間に残された時間は、ほんのわずかです。出会いがあれば別れもある。それが人生です。分かれとは寂しく、悲しいものですが、卒業という別れには、新しい扉、という希望も感じます。谷地西部小学校で、

学んだみなさんには、自ら行動できる力があります。人を大切にできる心があります。そして、新しいことに挑戦できる勇気があります。自分に自信をもち、力強く前に進んでください。

こんなに楽しい谷地西部小学校をつくってくれてありがとう。みなさんの人生という道のどこかで、再びすれ違える日が来ることを楽しみにしています。

それでは、卒業生のみなさん、よい仲間をつくって、ひとりひとりの人生という旅を楽しんでください。いってらっしゃい。

(校長 白田 敏幸)

【修了式での児童代表あいさつ】

ぼくは、この一年間で、自分なりに「3つの力」を付けられるようにがんばりました。

まず、「自ら行動する力」は、国語や算数などの、自由進度学習で身につきました。5年生の時は、先生といっしょにみんな同じように学習を進めていました。だけど、6年生になって、自分で一つの教材にどれだけ時間を使うかを考えられるようになりました。そのおかげで、自分の気になる内容に、時間をかけて調べることができました。そして、文章を書くだけでなく、図やラインを引くなどの分かりやすいノートにまとめることができ、楽しく勉強ができました。

さらに、相手に分かりやすくするために、文章を書いたり、自分の意見を話したりするときに、「人を大切にする力」が身につきました。国語の時間に、ビブリオバトルをした時は、「自分がなぜその本をすすめるのか」「どんなところを読んでほしいか」などを相手に分かりやすく伝えるように話しました。

また、自分の好きなことや、やりたいことをやり続けることで「考え抜く力」が身につきました。昼休みにバスケットボールをやり続けたり、読みたい本を空き時間を見つけて読み続けたりするなど、日頃からやりたいことを意識して継続してきました。だから、学校で楽しく過ごせたと思います。

この一年間でつけた力を、中学校やこれからの生活に生かしていきたいです。

6年 田宮 佳直



ぼくは、この一年で特に成長したことが3つあります。

1つ目は、まとあてゲームです。友達にパスをしようとしたときに、相手チームがいっぱいいたので、投げられそうではなかったです。ぼくは、パスしやすい場所に自分で考えて動きました。そうすると、パスをもらうことができました。勇気を出して上にボールを投げました。パスは通りませんでした。カラーコーンにぶつかりました。自分で自分をすごいと思いました。ぼくはうれしかったです。

2つ目は、eライブラリです。最初はパソコンの使い方すら分かりませんでした。次にみんなでeライブラリの仕方を習いました。そして、タブレットの使い方が分かりました。ぼくは、友達に聞きながら、タブレットの仕方が分かりました。そして、今は、すごく前よりももっと速くできるようになりました。

3つ目は給食です。給食は食べ終わる時間を決めます。2学期までは、食べ終わる時間が伸びてしまうことがありました。3学期になったら、給食が終わる時間の五分前には食べ終わるようになりました。何回かは35分で食べ終わったりもするようになりました。

2年生になったら、来年の1年生に教えられるようになりたいです。

1年 宇野 桔平



3月12日(火)に、5年生が企画・運営を担当した、6年生を送る会を実施しました。

会の中で、全校生でゲームを楽しんだり、一人一人がお世話になった6年生との思い出を話したり、感謝の言葉を贈ったりしました。令和5年度のよい思い出をつくることができました。



全校生でこおりオニ



児童会委員会の引継ぎ



6年生へ感謝の言葉



全校生から色紙のプレゼント



企画・運営をした5年生



保護者の方が来校してくれました。

令和5年度末の人事異動(3/21 現在)

今回の人事異動により、3名の教職員が谷地西部小学校を離任することとなりました。保護者、地域の方々よりは、一方ならぬご指導やご厚情を賜りありがとうございました。この場をお借りし、ご挨拶申し上げます。

それに伴い、5名の新たな教職員が赴任いたします。旧職員同様、保護者、地域の皆様よりのご指導、ご鞭撻、よろしくお願いいたします。

牧野 由香 教諭(退職)

村山 智香 教諭(寒河江市立醍醐小学校へ)

佐藤 幸栄 養護教諭(鶴岡市東栄小学校へ)

【転入する職員】※3月22日(金)現在

原田 幸江 教諭(河北町立北谷地小学校より)

林 里穂 教諭(寒河江市立寒河江小学校より)

須藤 純子 主任主査(河北町立谷地中部小学校より)※令和5年度は、本校で週4日勤務
(講師1名 養護助教諭1名 転入の予定)

【卒業証書授与式】

3月18日(月)に、令和5年度の卒業証書授与式を挙行政いたしました。(卒業生は6名)

今年度は、ご来賓にもご参列いただき、また、ご家族の参加人数の制限も設けなくて実施しました。

また、「より卒業生を中心に据えた卒業式」「谷地西部小学校だからこそできる卒業式」を創ることをテーマとし、式の内容を見直しました。具体的には、卒業生一人一人が6年間を振り返り、思い出や感謝の言葉を話す時間を一人2分～3分程度設定したことです。(その分、「わかれの言葉(全校生による呼びかけ)」を削除しました。)低学年の頃は学校に来ることが億劫だったことや、親への感謝、中には、5年生へ来年度の西部小学校を託す言葉を話した卒業生もいました。卒業生が自分の思いを自分の言葉で話す場を設定できたことは、本当によかったと思っています。そんな卒業生の姿を憧れの目で見ている在校生が印象的でした。

